



かけこう通信

令和6年度 第7号
令和6年11月15日
島根県立三刀屋高等学校
掛合分校発行(文責:小川)

【特集】2年生が台湾研修旅行へ出かけました

今年度、コロナ禍により延期となっていた2年生「台湾研修旅行」を無事実施することができました。研修旅行実施にあたっては、雲南市役所の皆様、JAや宇山営農組合ほか関係各機関・団体の皆様、地域の皆様、保護者の皆様に多大なご理解とご支援をいただきましたこと、まずもって御礼申し上げます。ありがとうございました。

掛高では、1998(平成10)年に海外研修旅行を開始し、訪問先をシンガポールとして4泊5日の研修旅行を実施してきました。その後20年が経過し研修内容等を検証するなかで、掛高が取り組んでいる「雲南のお米を応援するプロジェクト」といった地域をフィールドとした探究活動との連関も期待できる台湾に訪問先を変更し、2020(令和2)年からの実施を予定していました。しかし、コロナ禍による海外渡航自粛期間もあり実施を延期せざるを得ない状況となっていました。台湾に訪問先を変更して初めてとなる海外研修旅行、また数年間のブランクもあいまって、生徒の皆さんはもとより我々教職員にとっても一からのスタートとなり準備段階において戸惑う点も多くありましたが、雲南市役所、また雲南市PR大使も務めていらっしゃる林 定三様(鼎三国際企業有限公司会長)からの力強いバックアップをいただき、真理大学訪問や台北101タワー横に位置するショッピングモール微風南山店でのお米販売、現地小・中・高校生との交流活動等充実した研修内容を順調にこなすことができました。改めて感謝申し上げます。



2泊3日という短い日程の中、また台風等の影響により雨に降られる場面が多くありましたが、台湾の皆さんのエネルギーなおもてなしに引きずられるかのように、生徒の皆さんが日に日に成長していくようすを目の当たりにすることができました。初めての飛行機、初めての外国等“初めて”が多くあった生徒の皆さんもいたのではないのでしょうか。今回の台湾研修旅行における様々な“未知との遭遇”が、皆さん一人一人の持っている可能性を広げる契機となることを期待しています。(本間校長)

10月24日(木)~26日(土)の2泊3日の日程で、2年生台湾研修旅行を実施しました。

ほとんどの生徒にとっては、初めての海外旅行でありワクワクとドキドキを胸に出発しましたが、台湾の生活習慣や文化に直に触れ大いに刺激を受けました。研修旅行を通して、これまで以上に友達との親睦を深めるとともに、集団行動を意識しながら様々な場面でそれぞれの生徒が割り当てられた役割をきちんと果たすことができました。タイトなスケジュールでしたが充実した研修内容で多くのことを学ぶ機会になりました。

主な研修内容は、次のとおりです。

1日目：10月24日(木)

- ・真理大学訪問(中国語講義、クラブ体験)

借り上げバスで三刀屋交流センターを出発し広島空港へ。広島空港発台北桃園空港行の飛行機に搭乗し台湾へ。到着後、貸し切りバスで真理大学へ。中国語講義に先立って、代表生徒が大学の先生方や学生の皆さんにパワーポイントを用いて掛合町や掛合分校の紹介をおこなった。中国語講義では、中国語の基本文法について解説を聞いた後、日常会話で使える例文を楽しくレクチャーしていただいた。また、クラブ体験では、アーチェリー部の学生の皆さんに弓の引き方や照準方法を指導してもらいながら射撃体験をした。荒天のため、予定していた大学周辺の街散策と台北101タワーでの夜景展望は中止した。



2日目：10月25日(金)

- ・十分、九份の観光、微風南山店(お米販売活動)、台北101タワー、寧夏夜市散策

午前は、あいにくの雨天ではあったが十分での天燈上げ体験、九份での観光を楽しんだ。昼食後、微風南山店へ移動し、田植えや稲刈り等で携わったお米の販売活動をおこなった。入間花田植えの衣装を着て、掛合太鼓の演奏、試食の提供、あてくじなどの催し物をおこない、来客者の方に喜んでいただくことができた。また、現地の中高生に販売活動を手伝ってもらったり、夕食



を一緒に食べたりし、貴重な交流の場となった。午後から天候が回復したので、お米の販売活動を短縮して1日目に実施をできなかった台北101タワーでの夜景展望を組み入れ台北市内のきらびやかな夜景を堪能した。



3日目：10月26日（土）

・忠烈祠、故宮博物院、龍山寺の観光

午前は、忠烈祠と故宮博物院を訪れた。忠烈祠での衛兵交代式は、衛兵が足音を高々と鳴り響かせて行進する姿、息ぴったりに銃剣を振り回す所作は圧巻であった。故宮博物院では、現地スタッフのガイドのもと貴重な美術品を鑑賞した。午後は、龍山寺を訪れ、各々の願い事を念じて台湾式おみくじに挑戦した。その後、台北桃園空港へ移動し、台北桃園空港発広島空港行の飛行機に搭乗し日本へ。広島空港から借り上げバスで帰路についた。（大門）

=====

「台湾研修旅行で生徒たちが得たもの」

掛合分校では、総合的な探究の時間において、地域理解・地域貢献をベースに各学年で学習を進めています。1年時に掛合地区5地区に分かれ、地域の現状、課題、未来を見据えて問いを設定し、学習活動を進めてきました。2年時にはその活動を雲南市に広げ、雲南市が取り組んでいる地元米の販売促進を通して市を盛り上げていく活動に参加しています。

5月の田植えに始まり、雲南市について、雲南市で作られているお米について、宇山地区について、お米の販売の手法について、台湾について、調べたり、台湾の方々と事前のオンライン交流をしたり、地域の方々と協働する中で学びを深めてきました。

そして稲刈りを終え、いよいよ自分たちが育てたお米を台湾で販売する日がやってきました。台湾での販売会は今回が初めてであり、わずか2時間の販売会ではありましたがそれまでの準備には多くの方々の協力を必要としました。販売会の主催者である台湾の会社の会長とその社員の方々、会場となるデパートの担当者、雲南市役所の担当者、学校とそれぞれの思いや考え、事情や都合を言葉の壁と文化の違いを超えてぎりぎりまで調整を続けました。販売会は関係の皆様方の努力と協力がなくては成しえなかったと思います。



当日は午前中大雨のなか観光をし、着替える暇も着替えもないまま会場に向かいました。会場では事前に雲南市の方が荷物の搬入とある程度のセッティングをしてくださっていました。十分に打ち合わせをしたつもりでいてもやはり行ってみると、試食の

道具や配置、着替えの場所、イベントの準備、荷物の搬出など予定通りでなかったり予想外のことがたくさんあったり、トラブルの種が山ほどありましたが、現地スタッフの方やツアーガイドの方までが生徒たちのために自分の事以上に動いてくださり、無事販売会を開催することができました。

生徒たちは花田植えの衣装に着替え、言葉の通じない現地のお客さんに対して臆することなく接し、自分たちの役割を堂々とこなしてくれました。



普段の姿よりずっと頼もしく見えました。オープニングの掛合太鼓と笛の演奏、試食の呼びかけ、イベントの説明とプレゼンツの配布など、言葉の通じない現地の高校生と協力して生き生きと活動している姿は、掛合分校が取り組む総合的な探究の時間とこの台湾研修旅行の意義そのものだったと思います。

今回の研修旅行での生徒たちの成長を見て、この一連の学習は、掛合分校を卒業し、地域に根差し地域に貢献しながら生きていく生徒たちの「一本の太い軸」になると、確信しました。（山本）

=====

「如己愛人（によこあいじん）」

台湾の10月は快適なベストシーズンで平均気温は25℃と示されていましたが、台風の影響で気温は低く冷たい雨の中の研修旅行でした。予想外の寒さと雨、睡眠不足、慣れない香辛料や油っこい食事、街に漂う独特なおいで、体調不良を訴える生徒が数名出ました。



真理大学での野外活動中、冷たい雨と寒さで体調を崩した生徒がいました。大学スタッフは構内のコンビニエンスストアに私たちを案内し、温かいお茶を買って休ませ、薬の心配や体を気遣う言葉かけをしてくれました。たまたま買い物に来たベトナムからの留学生は、大学からMRTの駅までタクシー移動する私たちのために頼んだ9台の車を校門で待つ役を請け負ってくれました。台湾で経験した多くの出来事を思うと、少し大袈裟な表現ですが、如己愛人（己の如く人を愛する）という言葉が浮かびました。

大きなけがや病気もなく2泊3日の研修旅行を無事に終えることができました。帰りの飛行機のなかでは生徒たちから「やっぱり日本がいい」「みそ汁が食べたい」「他の国にも行ってみたい」など振り返りがありました。とても有意義な体験だったと感じています。（藤原）